

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 6 月 25 日現在

機関番号：32675
 研究種目：若手研究(B)
 研究期間：2017～2020
 課題番号：17K18101
 研究課題名（和文）モダニズム文学における建築の政治学 「空間」をつくる女性たちの欲望と可能性

 研究課題名（英文）The Architectural Politics of Literary Modernism: Women's Desire and Possibility to Produce Their Own Space

 研究代表者
 菊池 かおり (KIKUCHI, Kaori)

 法政大学・経営学部・准教授

 研究者番号：50793246
 交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、20世紀戦間期に活躍した女性作家、デザイナー、そして建築家の活動と、同時代に隆盛を極めたモダニズム建築の理念に焦点をあて、文学と建築を結ぶ新たな視点をジェンダーの観点から提唱した。また、彼女たちが創り出した空間の歴史的・文化的意義を模索する上で、モダニズム建築と同時期にありながら従来の建築史において取り上げられることの少なかったアール・デコの社会的・文化的文脈の重要性を明らかにし、その文脈をポストモダン建築との関係性において再読することで、モダニズムとポストモダニズムの重層的かつ横断的な読み直しの可能性を浮き彫りにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
 モダニスト・テキストと社会空間との親和性については既に先行研究が存在するが、本研究は、建築家と小説家は空間を創造する点で同等であると言うVirginia Woolfの考えを起点として、建築と小説の空間を横断するのみならず、モダニズムとポストモダニズムといった20世紀を彩る二つの運動を包括的に捉え直すことの重要性を問うものである。このような時間軸を通して脱領域的に、女性作家・建築家の活動、また彼女たちの作品が内包する社会的・文化的意義を模索することは、一枚岩で語りつくせない過去を現在から逆照射することであり、今後、新たな社会を模索する上での手掛かりとなり得るものである。

研究成果の概要（英文）：This research project shed new light upon the relationship between literature and architecture, by exploring the spatial politics of female modernist writers, designers and architects who critically engaged with the predominant disciplines of modern architecture and produced their own space. In order to appreciate the historical and cultural meanings of their spatial politics, the project disclosed the vitality of the socio-cultural context of art deco. In addition, re-examining the socio-cultural context of art deco in relation to postmodern architecture enabled to explore the possibility to reconsider the dynamic relationship between modernism and postmodernism, and subsequently relocate their spatial politics within a broad map of the twentieth century.

研究分野：イギリス文学・文化

キーワード：モダニズム ジェンダー 建築 アール・デコ ポストモダニズム

1. 研究開始当初の背景

本研究の背景は、モダニスト・テキストと実社会における空間のネットワークとの関係性を探るモダニズム研究、特に Modernism and Geography と称される近年の研究動向にある。つまり、アンリ・ルフェーブルをはじめとする都市空間論を用いながら、日常生活の骨格を担う社会空間のネットワークをもとに、小説に表象される空間のネットワークが含蓄する潜む政治的・文化的意義を解き明かす研究がここしばらく積極的に行われてきた。しかし、ルフェーブルなど空間論にみられるドグマティックな建築のヴィジョンと、それと対照的に論じられるリベラルな小説の空間という二項対立に対する問題提起はなされていなかった。

そのため、本研究は、ヴァージニア・ウルフが建築家と小説家を空間の創造者であるという点において同等のものであるとする考えを起点として、建築家と小説家の二項対立に対する従来の考え方から脱却する必要性に着目した。そして、ルフェーブルなどの都市空間論で論じられることのなかった女性建築家やインテリア・デザイナーの活動を含めて、再度、モダニズム建築と文学の関係性を考察することを目的とした。

2. 研究の目的

本研究の目的は、「1. 研究開発当初の背景」ですすでにある程度説明した通り、従来の都市空間論とその理論を用いて急速に発展した Modernism and Geography の研究において見過ごされてきた建築家と作家の二項対立から脱却するために、戦間期に活躍した女性作家、デザイナー、そして建築家の活動と、同時代に隆盛を極めたモダニズム建築の理念に焦点をあて、文学と建築を結ぶ新たな視点をジェンダーの観点から拡張・再定義することを目的とした。

これに付随する目的として挙げられるのは、彼女たちが創り出した空間の歴史的・文化的意義を模索する上で、モダニズム建築と同時代にありながら従来の建築史において取り上げられることの少なかったアール・デコの社会的・文化的文脈の必要性に着目し、その文脈をポストモダン建築との関係性において再読することで、モダニズムとポストモダニズムの重層的かつ横断的な読み直しの可能性を捉え直し、文化史的観点から学際的に論じることであった。

3. 研究の方法

このような研究目的のために、本研究は、海外の図書館で資料調査・収集を行いながら、以下の三つの方向から研究を進めた。

1) 女性作家の建築描写とその政治的意義の模索

本研究のテーマの一つである空間は、その性質ゆえに抽象的な議論になりがちなため、より具体的な議論を展開するために、実際の建築空間に対する描写を読み解く際、その空間デザインが含蓄する社会的な問題を考察し、当時の男性建築家の空間へのアプローチと比較検討した。その際、「女性」というくくりで彼女たちの創作活動を一緒に考察するのではなく、それぞれの社会的・文化的背景を考慮に入れて分析することで、それぞれの空間描写が担う社会的・政治的役割を考察した。

2) 女性デザイナーと建築家の活動と受容の模索

20世紀前半に活躍していた女性インテリア・デザイナーや建築家の活動と受容を考察するため、彼女たちの創作活動や空間に対するアプローチを同時代の女性作家や男性建築家と比較検討するのみならず、モダニズム建築と同時代にありながら同時に語られることの少なかったアール・デコの文脈に着目し、その二つの関係性を歴史的・文化的背景を含めて概観するとともに、そこに潜むジェンダーとセクシュアリティの問題についての検討を進めた。そうすることで、モダニズム建築と女性デザイナーに対する当時の英国国内における捉えられ方を考察した。

3) モダニズム建築に対するヴィジョンの再構築への試み

アンリ・ルフェーブルをはじめとする都市空間論、またそれらの理論的なフレームワークを用いてモダニスト・テキストの空間ネットワークを考察してきたモダニズム研究において、往々にして、一枚岩として捉えられてきたモダニズム建築に対するヴィジョンを再構築するため、上記1)と2)の研究を踏まえつつ、ポストモダニズム建築の視点を含め、包括的にモダニズム建築が担っていた社会的・政治的役割を考察した。

4. 研究成果

上述した研究アプローチによる研究成果は、おもに以下の通り分類できる。

1) 女性作家の建築描写とその政治的意義を考察した結果を論文 2 本と招待講演にて発表した。また、その前提となる基礎的・理論的研究を図った初年度は、女性作家と都市空間の関係性について論じられた書籍についての書評を刊行した。

2) 女性デザイナーと建築家の活動と受容を考察した研究成果は、日本ヴァージニア・ウルフ協会の全国大会シンポジウムにて発表し、その後、論文として刊行した。

3) モダニズム建築に対するヴィジョンの再構築を試みる研究成果の一部は、2018 年に学会発表をし、さらに 2021 年に刊行された共著において発表した。

総括すれば、本研究は、モダニズム建築と同時代に活躍した女性作家、デザイナー、そして建築家の活動に焦点をあて、文学と建築を結ぶ新たな視点をジェンダーの観点から提唱しながら、一枚岩で語りつくせないモダニズムの重層的かつ横断的な読み直しの必要性を多角的に浮き彫りにしたと言える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 菊池かおり	4. 巻 36
2. 論文標題 モダニズム建築の抑圧とアール・デコの可能性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『ヴァージニア・ウルフ研究』	6. 最初と最後の頁 104-120
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kaori Kikuchi	4. 巻 514-13
2. 論文標題 The Social Order of 22 Hyde Park Gate and the Spatial Politics of To the Lighthouse	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『人文学報』	6. 最初と最後の頁 9-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菊池かおり	4. 巻 34
2. 論文標題 【書評】Arina Cirstea, Mapping British Women Writers' Urban Imaginaries: Space, Self and Spirituality	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『ヴァージニア・ウルフ研究』	6. 最初と最後の頁 96-99
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菊池かおり	4. 巻 -
2. 論文標題 第2章文学：第1節イギリス文学	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『専門学へのいざない』新里卓（編著）	6. 最初と最後の頁 43-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 菊池かおり
2. 発表標題 文学と建築の交差点-小説家ヴァージニア・ウルフを通して
3. 学会等名 2019年度英文学会総会・春季講演会（大東文化大学）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 菊池かおり
2. 発表標題 モダニズム建築の抑圧とアール・デコの可能性
3. 学会等名 日本ヴァージニア・ウルフ協会第38回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 菊池かおり
2. 発表標題 ポストモダン地理学とモダニズムの転回
3. 学会等名 2018年度都立大・首都大英文学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 菊池かおり、松永典子、斎藤一、大田信良	4. 発行年 2021年
2. 出版社 小鳥遊書房	5. 総ページ数 300
3. 書名 『アール・デコと英国モダニズムー20世紀文化空間のり・デザイン』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------